

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス

場 所	できごと
M20～21 付近	10月、野生動物との鉢合わせを避けるために施設の外周に沿って、ササや低木を伐採しました。
N2付近	昨年、現在通行止めになっているN17付近からキッコウハグマを試行的にN2付近に移植しました。花を咲かせずに自家受粉する閉鎖花が多く、開花しないかと思いましたが、11月に1株開花を確認できました。



N2付近キッコウハグマ



M20付近伐採作業後

冬越しする木の芽 ～探してみよう、いろいろな冬芽のかたち～

落葉樹は冬の低温や乾燥などを乗り切るために、成長を止めて葉を落としますが、枝の先には来年の葉や花となる芽を準備しています。冬芽と呼び、冬の樹木観察の題材としてよく扱われます。

冬芽は寒さや乾燥、虫からの食害に耐えるため、いろいろな工夫をしています。その種類は大きく分けると、うろこに包まれた有鱗芽（ゆうりんが）と芽が露出している裸芽（らが）に分かれます。有鱗芽ではコブシやトチノキ、裸芽ではオニグルミなどが特徴的です。また、冬芽のすぐそばには、葉がついていたあとの葉痕（ようこん）があり、合わせて観察するのもおすすめです。さらに冬芽や葉痕では樹木の種類がわからないときは、樹皮や枝ぶり（全体の樹形や対生か互生かなど）、根元に残っている落ち葉なども参考にしてみましょう。

花や実がある時期とはちがう、冬ならではの姿を観察してみてください。展示室では自分で観察した冬芽や葉痕の記録ができる、観察カードも配布しています。ぜひご活用ください。

有鱗芽

ふさふさ毛皮の
コートみたい！

コブシ



表面がねばねば

トチノキ

裸芽

ピロード状の毛が
あたたかそう

葉痕も特徴的

オニグルミ

こっちは
もこも毛布みたい

アカメガシワ

秋を彩るタデの仲間

みなさんはタデ科の植物というのを思い浮かべますか？

身近では茎の先に濃いピンク色の丸い実をたくさんつけるイヌタデや1m以上もの背丈になる太い中空の茎をもつイタドリ、開けた場所に生え濃い緑色の葉を出すギンギンなど見た目も大きさも様々なタデ科植物を見ることができます。

特にイヌタデは田んぼの畔や空き地に生えており、アカマンマと言って子どものころに赤い実を集めて遊んだ人もいないでしょうか。

自然観察園では多くのタデ科植物を観察することができます。中でも花は小さいのですが、9月から10月の間、少しずつ咲き、美しく可憐な様子を長く見ることができるのが魅力の5種類を紹介します。タデ科の植物を見分けるには、花のつき方、葉の形、托葉鞘（たくようしょう）の形がポイントになります。托葉鞘とは茎を包んでいる筒状の部分で、その縁の部分に毛のあるものもあります。花の外側の部分の花被は種になってからも桃色を保ち、きれいな色は寒い時期まで続きます。



イヌタデ

ポントクタデ

花



花は茎の上部にややまばらにつく

葉



中央に山の形の斑紋が出るが多い

托葉鞘



托葉鞘が12mm、縁毛が8mm

ハナタデ



花は茎の上部にややまとまってつく



先が尾状にとがる



托葉鞘、縁毛ともに5～7mm

イヌタデ



花は茎の上部に密につく



先がゆるやかにとがる



托葉鞘、縁毛ともに5～7mm

ミソソバ



花は茎の先にまとまってつく



矛型をしており、牛の顔のようにも見える



托葉鞘は7mmほど

ヤノネグサ



花は茎の先にまとまってつく



葉の根元は矢じり型～浅い心形



托葉鞘は8～20mmで短い縁毛がある

観察するときにはルーペを持ってじっくり観察してみましょう。今まで見ていなかったタデ科植物の面白さや繊細な作りが見えてきますよ。



傷病鳥獣救護の業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を收容し、必要に応じて治療や野生に戻すことを目標にリハビリを行っていて、そうした野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報をこの「かわせみ通信」に掲載しています。

ネコに襲われる野生動物たち

自然環境保全センターに持ち込まれる野生動物の救護原因の中に「ネコに襲われる」というものがあります。ネコに襲われると、長く鋭い爪や牙によって内臓が傷ついたり、爪や牙に付着している細菌などによって感染症になったり、小さな傷に見えても重症化し死亡することがあります。

ネコに襲われ救護された動物上位5種

種名	成鳥	巣立ち ヒナ	巣内 ヒナ	合計
キジバト	45	45	18	108
ヒヨドリ	22	30	4	56
スズメ	9	57	4	70
ムクドリ	6	16	5	27
ツバメ	3	10	12	25

2009～2022年度



ネコに襲われたと
思われる傷

キジバト

保護日：2025年7月

外 傷：右翼骨折、
両側側腹部に
外傷

結 果：2日後に死亡

救護記録をみると、種類としてはキジバトやヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、ツバメなど人間の近くに生息している身近な鳥類が多く、ネコに襲われ救護された動物全体の6割を占めます。キジバトは地面を歩いてエサを探していることも多いので、ネコに襲われる確率が高いと考えられます。また、巣立ちヒナなど天敵から逃げる能力が低い個体が襲われるケースも多いようです。

ネコは人間のそばで十分なエサをもらっていても狩猟本能があるため、近くに動くものがあると追っつけてしまいます。この習性によって、世界的には希少種を襲うなど種の保存の問題にもなっています。ネコにとっても外に出るということは交通事故や病気の感染などのリスクがあります。ネコと暮らす場合は、ネコが過ごしやすい環境をつくって室内飼いをすることが野生動物にもよい結果につながります。

中央農業高等学校との連携 ～規格外の果実が救護動物たちの糧に！～

救護された野生動物には、それぞれの食性や体調、体重に応じたエサを与えるため、救護現場では多様な食材を準備しておく必要があるのですが、その確保が常々課題となっています。

そんな中、昨年度から神奈川県立中央農業高等学校の果樹専門研究部の生徒さんなどが育てた果実のうち、売り物にならない廃棄果実を提供していただけることになりました！これまでに梨や桃、柿などなんと20kg以上！！果実を好んで食べるメジロやヒヨドリ、タヌキなどが有り難くいただき、本当に助かりました。

昨年には生徒さんたちが実際に当センターの救護現場を見学し、人と野生動物が近くで暮らすことによって起こる様々な軋轢について直接感じてもらうことができたり、11月に行われた文化祭では、果樹専門研究部のブースに当センターのパンフレットを置いてもらうなど交流を続けています。今後とも、ご協力よろしくお願いします！



提供された果実。売り物にはならなくても動物たちにとってはごちそうです！

カヤネズミの救護記録

この秋、カヤネズミを受け入れました。カヤネズミは日本で一番小さなネズミの仲間で、成獣でも体重は9～16gほどです。ススキ原などの生息環境の減少などにより、神奈川県では準絶滅危惧種に指定されています。

持ち込まれたカヤネズミは5匹の幼獣で、すでに目は開いていたため、生後10日ほど経過しているように思われました。稲刈りをしていたところ巣を壊してしまったそうで、周辺もきれいに刈り払われ、親も見当たらなかったため搬送されてきました。

基本データ

種 名：カヤネズミ（ネズミ科）

生息地：水田、畑、休耕田、河川敷などの背丈の高い葉の多い草原に球形の巣を作り、繁殖する。
冬は地下のトンネルで暮らす。

食 性：小さな草の種、イナゴなどの昆虫など



巣材代わりの
シュレッダーくず

飼育は試行錯誤の連続

カヤネズミは生後2週間ほどで巣立つそうです。ミルクを与えて数日、上手に飲めるようになりましたが、この後何を食べて成長するのでしょうか？カヤネズミを幼獣から育てる方法がわかる参考資料は少なく、当センターでも実績はありません。

そこで、飼育実績のある相模川ふれあい科学館の方からアドバイスをいただき、ヒエ、キビ、アワ、ヒマワリの種やサツマイモなどを与えてみると自分で食べることができるようになり、活発に動くようにもなりました。

3匹は途中で死亡してしまいましたが、残った2匹は体重が受入れ時の3.0gから5.3gへ。わずかな差のように感じますが、しっかり大きくなりました。

ここまで成長すれば次は放野です。「カヤネズミの生息域は約400㎡である」との資料をもとに、寒くなる前に保護場所の近くのススキ原に放野しました。一瞬で草むらに走りこんでいきました。

アドバイスをいただいた方々、突然の間合わせにも関わらず丁寧に対応していただき、ありがとうございました。



シリンジでミルクをあげているところ



山裾の
ススキ原

もしカヤネズミの巣を壊してしまったら…

今回はある程度成長した幼獣だったこともあり、放野することができましたが、小さなカヤネズミを人の手で飼育するのはとても難しいのです。

もし、草刈りなどで子育て途中の巣を壊してしまったら、素手では触らず、巣のあった場所の近くに稲わらなどの草をそのまま盛って中に入れてあげてください。また、刈る前に巣を見つけた場合は、その周辺だけ刈り残してあげれば引っ越しが可能です。人間が近くにいると親が警戒して迎えに来られないので、そっと立ち去ってください。

里地を代表する動物のひとつであるカヤネズミは、意外に身近なところにいるかもしれません。生息環境が維持されていくといいですね。